

油津ぶらり旅

ニュー・とれと商店街



会場 油津 Yotten (日南市岩崎 3丁目 10-6)

「油津ぶらり旅」って？

劇場を飛びだして県内のあちこちに舞台芸術をお届けしようと2021年にスタートしたプロジェクト「の、まど」。その一つとして、日南市の油津商店街を会場に『油津ぶらり旅』を実施しました。

企画段階で、日南市内をあちこちめぐっていたところ、強く心惹かれたのが油津商店街。年季の入った昔ながらのお店がある中で、IT企業のオフィスや保育園、レコードが無料で聴けるスペースなど、従来の商店街のイメージとはかけ離れたものもあり、その混在しているさまがとても魅力的に感じられました。油津商店街を舞台にし

たら、何かおもしろい物語が生まれるのでは……。そこで、この商店街を参加者のみなさんと一緒に“ぶらり”とめぐり、商店街の日常を参加者自身の視点と発想で非日常の物語にしてしまう、まさに日常から非日常へと“旅”する『油津ぶらり旅』を企画しました。

6月に商店街をぶらりと旅して物語を書くというワークショップを行い、そして7月にはその物語をもとにした小さな作品をつくり、最後にショーイングを行いました！本紙は、その軌跡を記録したものです。

6月のワークショップ

2022年6月25日(土)・26日(日)

6月に行ったのは、油津商店街を歩きながら、写真を撮ったりお店の方にお話を聞いたりして、物語を書いてみるというワークショップです。



はじまり



最初に、ワークショップの内容についてガイダンスを行いました。講師は、宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターで、劇作家・演出家の立山ひろみさん。

まちあるき



さっそく“まちあるき”。ルートマップとカメラを手に、みんなで商店街をめぐる。普段なかなか撮ることのない商店街のさまざまなところを、どんどん撮影していきます！商店街の方々にお話を伺うことができ、貴重なお話にみなさん興味津々のようでした。



お話を聞かせてくださった商店街のみなさん

株式会社油津応援団
河野さん



フローリストうたつ 歌津さん



二代目湯浅豆腐店
湯浅さん



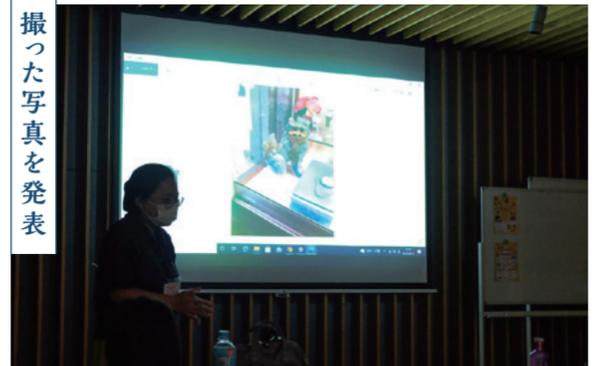
CURTIS CREEK
山口さん



あさひや 谷口さん



撮った写真を発表



撮った写真を、どこで撮ったか、どういうところが気になったのか、話しながら発表しました！

二日目



4コマで物語を書いてみよう



二日目は、前日に撮った写真を使って、4コマ漫画の形で物語づくりにチャレンジ。商店街にあるお花が散歩に出たり、商店街を見つめるマネキンや人形の話、乗ってくれる人を待つブランコの話など、さまざまな物語が。発表では、ほかの人の視点、商店街の切り取り方、そして自由な発想に、互いに驚きながら楽しんでいました。

物語を発表



宇宙人(?)が商店街に調査に来たり



4コマと文章形式で書いている人も

7月の作品創作ワークショップ

2022年7月23日(土)・24日(日)

6月のワークショップで生まれた数々の物語をもとに、立山ひろみ演劇ディレクターが台本を執筆!それをもとに、参加者の皆さんと一緒に2日間で小さな作品をつくるというワークショップです。最後に、お客さんをいれてショーイングを行いました。



ショーイングに出演する俳優・日高啓介さんによるウォーミングアップ!



読み合わせから!演劇をしたことがない方がほとんどでしたが、みなさん楽しそう。



小道具や衣装は、参加者の皆さんにお家にあるものを持ってきてもらい、決めました。

実は、台本があるのは途中まで!参加者の皆さんと話し合いながら、一緒に作品を紡いでいきます。「ああしたら」「こうしたら」とさまざまなアイデアを出し合い、作中のダンスも、みんなで振付を考えました。

稽古



ショーイング

ここは油津の「どこなのか そこのか あそこのか いつの日か」商店街。その昔、ここには大きな竜が住んでいて、人々はその下で商いをはじめ、大きく栄えていました。しかし時が経つにつれ、竜のウロコがはがれ落ちて、雨も日差しも防げなくなり、お店は少しずつ減っていきます。いつか竜の骨だけが残る頃、人々は再び集い、幻の竜のウロコを探す旅に出かけます……。



美術

壁の一面には、作品に登場する竜のウロコ!開場中にご来場いただいた方に、ウロコに願い事を書いて貼ってもらいました



宇宙人みたいな私たち

県内のいろんなところから参加して下さったWS参加者と商店街を歩いた。写真を撮ったり、商店街の人々の生のお話を聴かせて頂いた。そうすることで、ひとりで油津商店街を歩く時とは、全くちがう景色、時間をみなさんと共有することができたと思う。人のお話を聴くと見ている世界がガラリと変わる。この写真から物語を書こうと思うと写真を撮る手もいつもと違う。そんな、非日常を、日常が宿る”油津商店街”で体験させて貰えた。参加者の撮る写真を見るのも、そこから生まれる4コマ漫画を見るのも楽しい時間だった。そして、商店街を生きる皆さんとそこを訪れた宇宙人みたいな私たちと、その邂逅から生まれたショーイングは、ハンテコで愛おしい人間と世界と希望の物語だった。

ワークショップ講師・構成・演出 立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター)

参加者の声

6月のワークショップ

- ・普段だと聞けない商店街の人の昔話が聞けたり、いろんな年代の視点や想像力を体験できてよかったです。
- ・物語を考える楽しさ、まとめる難しさを体験できてよかった。
- ・“物語を書く”という目的があって、普段住んでいないところをまわるというのは、観光とは違う感覚で、油津商店街に愛着がわきました。

7月の作品創作ワークショップ

- ・劇をするのは初めてでドキドキしたけど、慣れてきて最後ちゃんとセリフが言えて良かった。
- ・演劇について知らないことばかりだったけど、こうやって作品がつくられていくんだと知れました。はじめての演技でしたが、経験者の方がひっぱってくださって、すごく楽しかった。
- ・ショーイングが終わって、ふと「さっきまで舞台にいたんだ」と自分にびっくりしました。すごく楽しい時間を過ごせました。

ショーイングの感想

- ・商店街のいろんなモチーフが入っていてよかったと思います。ファンタジックな部分と現実がまざり、自由気ままな参加者もいて楽しい雰囲気がよかったです。
- ・実在していたかどうかの“竜のウロコ”をさがしに……それを信じての旅(?) 私たちの毎日の生活と同じです。こんな状況(コロナ禍)でも自分を信じて、仕事に邁進しております。みなさん状況は違うでしょうが頑張りましょうとメッセージを受けました。ありがとうございました。お疲れ様でした。

やさしい
こころ

7月のワークショップ参加者の皆さんと

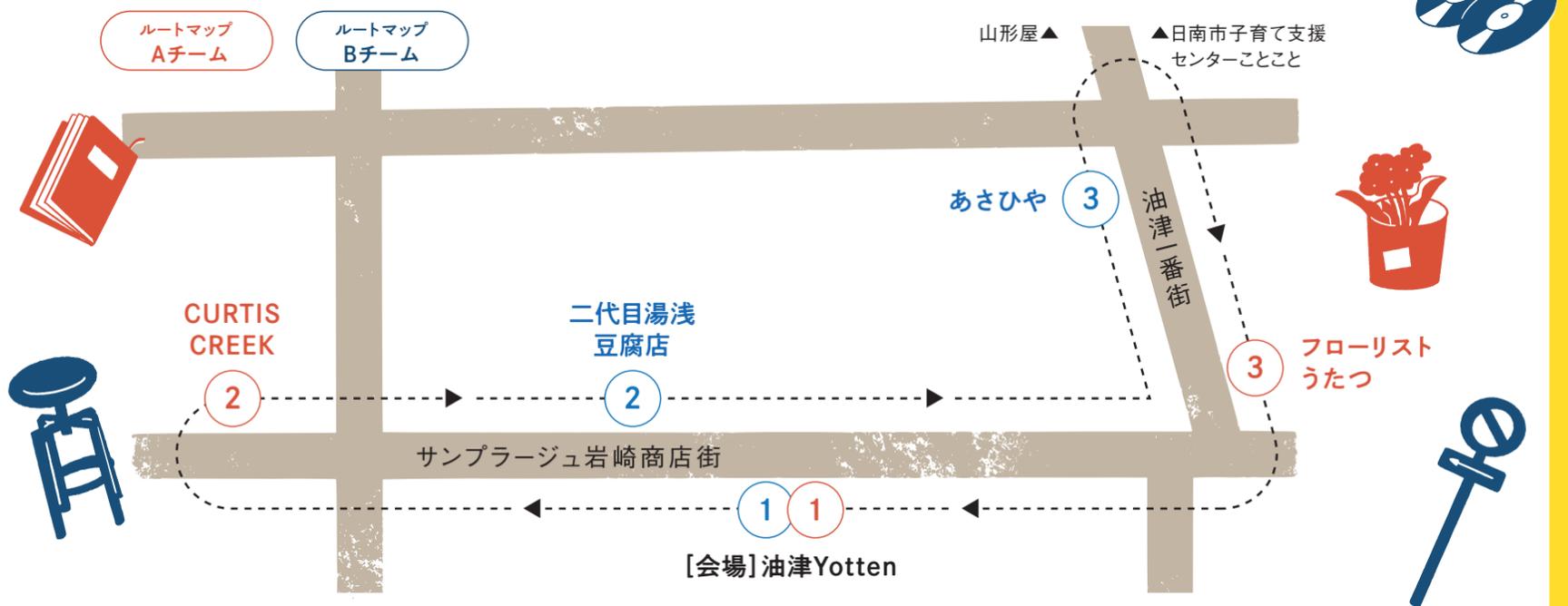


編集後記

小さいころ、目についたものがしゃべったり動いたり……そんな想像をしたことが誰しも一度はあるのではないのでしょうか。いつも眼にしている日常の風景が、想像力で非日常へと様変わりする。まさに“旅”のような体験を、油津商店街を舞台にお届けしました。さまざまな年代の参加者の、それぞれの視点から生まれる非日常の数々。そして、そこから小さな作品をつくり、お客さんと一緒に非日常の世界を満喫しました。本紙を通して、そんな“旅”で私たちが感じた楽しさや驚きが、お読みいただいた方に少しでも伝わればと思います。末尾になりましたが、今回ご協力いただきました油津商店街のみなさまに、心より感謝申し上げます。(宮崎県立芸術劇場 担当: 青柳)



ルートマップ 6月のワークショップでは、このルートマップをもとに、商店街を歩きながらお話をうかがいました。



協力：河野麗華さん(株式会社油津応援団)、歌津浩一さん(フローリストうたつ)、谷口章子さん(あさひや) 湯浅雅美さん(二代目湯浅豆腐店)、山口日登美さん(CURTIS CREEK)、油津商店街の皆さま

ワークショップ講師・構成・演出：立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター) ショーイング出演：日高啓介(FUKAIPRODUCE 羽衣)

宣伝美術：平野由記(ウフラボ)

主催：公益財団法人宮崎県芸術劇場 協賛：株式会社油津応援団

発行日：2022年9月15日

編集・発行：公益財団法人宮崎県立芸術劇場 宮崎県宮崎市船塚3丁目210番地 TEL. 0985-28-3208

